

10、11月の見頃マップ



A 子福桜



B カンツバキ



C ヒイラギ



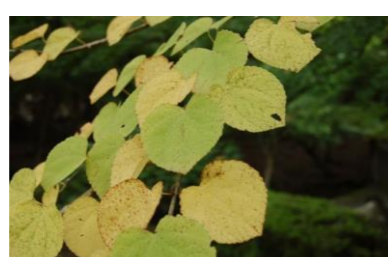
D マルバノキ



E ヤツデ



F オオモミジ



G カツラ



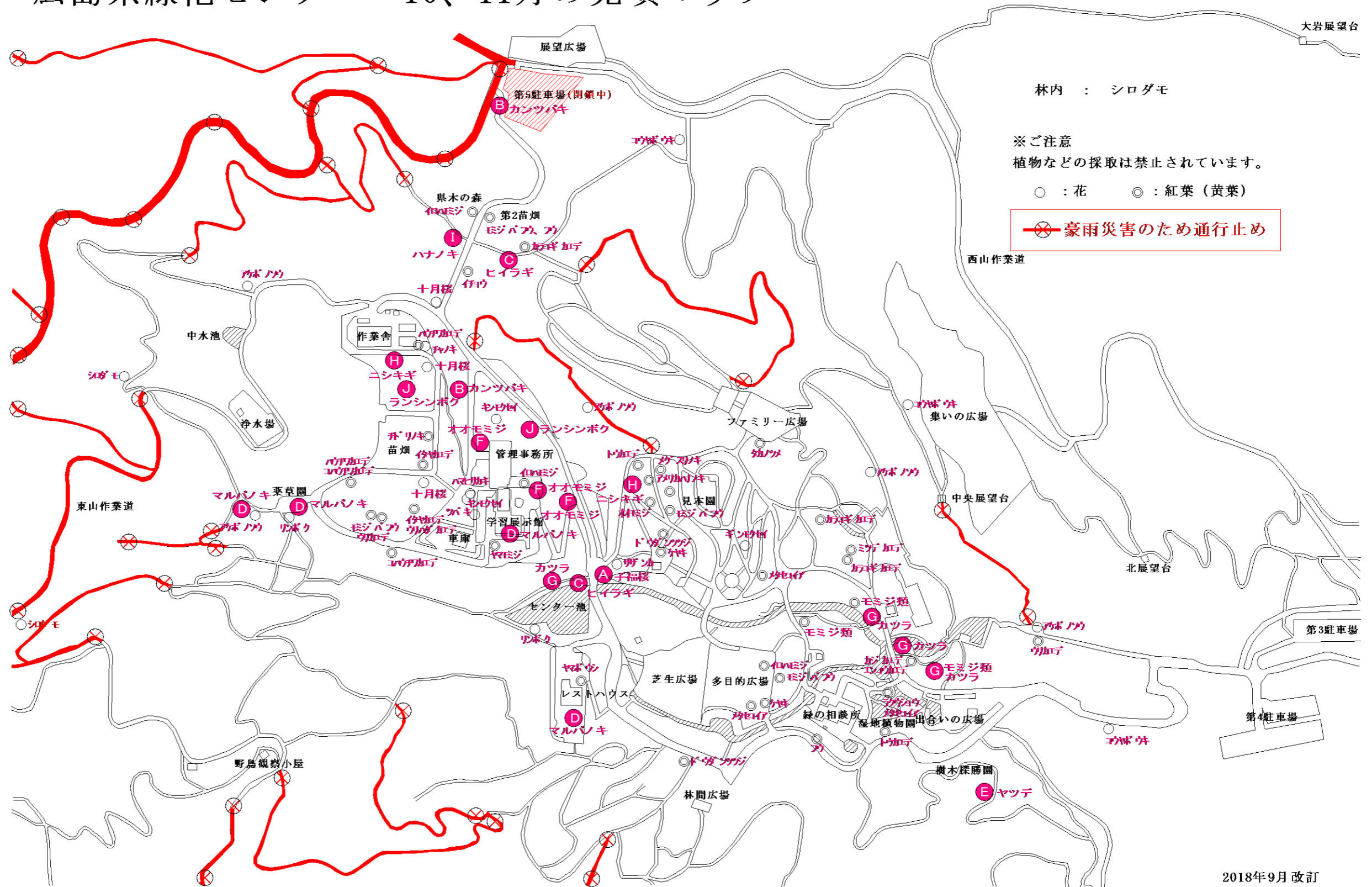
H ニシキギ



I ハナノキとイロハモミジ



J ランシンボク



林内 : シロダモ

※ご注意
植物などの採取は禁止されています。

○ : 花 ⊙ : 紅葉(黄葉)

⊗ 豪雨災害のため通行止め

2018年9月改訂

ここに掲載のない植物写真や、植物の詳しい解説はホームページをご覧ください。

<https://ryokka-c.jp/guide/>



開花樹木、草本類							
植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
アケボノソウ	リンドウ	センブリ		園内谷	9/15	山野の湿り気のあるところに生える2年草。茎の先に枝を分けて、9～10月に有柄の白い花を開く。花冠は深く5裂し、裂片には径1.5mmの黄褐色の蜜腺溝が2個と、濃緑色の斑点が多数ある。和名は曙草で、花冠の斑点を夜明けの星空に見立てたもの。	
カンツバキ	ツバキ	ツバキ		西ゲート下	10/21	サザンカとツバキの種間交雑品種とされる。樹形は横張り性。花は桃紅色の半八重～八重咲き。花弁は大小があり、縁は波打ち先が浅く裂ける。樹形が立性(枝が斜上する)ものはタチカンツバキとされる。	
キンモクセイ	モクセイ	モクセイ		管理事務所横他	9/20	ギンモクセイの変種。中国から渡来したとの説だったが、日本でウスギモクセイから育成されたという見解もある。葉はギンモクセイよりやや薄く、小形で細長い。花は直径4～5mm、橙黄色で強い芳香がある。日本では雄株しか知られていない。	
ギンモクセイ	モクセイ	モクセイ		見本園	9/20	中国原産。樹高は3～6mになり、縦に裂け目のある淡灰褐色の樹皮をしている。花は雌雄別株、9～10月に白い小さな花を束ねて咲かせる。花には芳香があるが、キンモクセイほど強くはない。	
コウヤボウキ	キク	コウヤボウキ	タマボウキ	西山作業道		やや日当たりのよい乾いた林下に生え、高さ60～90cm。花は9～10月、本年枝の先端に白い筒状花が10数個集まった頭花を1個つける。果実は毛が密生したそう果で、11～12月に熟す。和名は高野山でコウヤボウキの枝を束ねて箒を作ったことに由来する。	
子福桜	バラ	サクラ		センター池向い	10/13	花は径2～3cm、花弁数は20～50枚。秋から冬にかけてと、春の年2回開花する。品種名は、1つの花におしべが1～5本あり、1つの小花柄に複数の果実をつけることに由来する。果実は黒く熟す。	
サザンカ	ツバキ	ツバキ		園内	10/10	山地の林内や林縁に生育し、高さ2～6mになる。日本固有種。葉は互生し、長さ3～7cm、幅2～3cmの長楕円形～卵状長楕円形。ふちには鈍い鋸歯がある。花は10～12月に枝先に直径5～8cmの白い花をつける。果実は直径1.5～2cmの球形。	
十月桜	バラ	サクラ		苗畑他	9/13	暖地では10月頃から開花をはじめ、冬を通して少しずつ咲き、春になり多数咲かせる。花は淡紅色または紅色の八重咲き。果実はまれに結実し、黒紫色に熟す。径約0.8cm、苦味がある。冬咲きの花は小形で、春先の花は大形。	
シロダモ	クスノキ	シロダモ	シロタブ	東山作業路	10/18	暖地の山野に生育し、高さ10～15mになる。新枝と若葉は黄褐色の絹毛におおわれて良く目立つ。花は雌雄別株、10～11月に黄褐色の小さな花が咲く。果実は翌年の10～11月に赤く熟す。種子からとれる油でロウソクをつくっていた。	
チャノキ	ツバキ	ツバキ		作業舎裏	9/21	僧栄西が中国より持ち帰り、日本に広まった。葉は互生し、長さ4～10cmの長楕円形で先は鋭くとがり、縁には細鋸歯がある。10～11月に開花し、白色で径2～3cm。花弁は5枚。果実は11月に熟し、さく果は3裂する。	
ハマヒサカキ	サカキ	ヒサカキ	マメヒサカキ	管理事務所前	10/16	関東南部～沖縄の暖温帯に自生する常緑低木。高さは1.5～5m。花は雌雄異株、10～2月に開花し、葉腋に緑白色の小さな花を数個つける。雄花は雌花より少し大きく、花弁は5個。果実は球形の液果で、11～12月に紫黒色に熟す。	
ヒイラギ	モクセイ	モクセイ		県木の森向い	11/16	山地に生育し高さ4～8mになる。若い枝には微細な突起毛がある。花は雌雄異株、11～12月に葉腋に香りのよい白い花が束生し、果実は翌年の6～7月に紫黒色に熟す。節分に枝を戸口にさし、邪鬼の侵入を防ぐ風習がある。	
マルバノキ	マンサク	マルバノキ	ベニマンサク	学習展示館	10/14	花は10～11月、紅葉した葉が落ちる頃、葉腋に短い枝を出し、暗紅紫色の花を背中合わせに2個つける。花弁は5個、長さ7～8mm。葉は全縁、基部はハート形。葉柄は4～7cmと長い。果実は蒴果、翌年の秋に熟し、2裂する。	
ヤツデ	ウコギ	ヤツデ	テングノハウチワ	樹木探勝園	10/30	関東～沖縄の暖温帯で、沿海地に自生する。花は雌雄同株で、10～11月に開花する。枝先に球形の散形花序を円錐状に多数つける。花色は白色で、両性花。花弁、雄しべ、花柱は各5個。果実は球形で、翌年の4～5月に黒く熟す。	
リンボク	バラ	バクチノキ	ヒイラギカシ	センター池沿い 遊歩道上る	10月頃	山地の谷間などの照葉樹林内などに生え、高さ5～10mになる。葉は互生し、長さ5～8cm、幅2～3cmの狭長楕円形または狭倒卵形。花は9～10月に新枝の葉のわきから5～8cmの総状花序をだし、小さな花を多数つける。	

紅黄葉する樹木						
植物名	科名	属名	別名	植栽場所	解説	備考
アメリカハナノキ	ムクロジ	カエデ	ベニカエデ	見本園	北米東部原産の落葉高木、高さは15～20m。葉は、長さ8～10cm、幅5～8cmで、3～5裂する。裏面は粉白色で、脈上に綿毛がある。雌雄別株。4月頃に葉より早く橙紅色～濃紅色の花が枝先に集まって咲く。	
イタヤカエデ	ムクロジ	カエデ		苗畑他	日当たりのよい谷などに生育し高さ20m程度。若枝は緑色～紅紫色で無毛。葉は対生で掌状に5～7裂する。表面は光沢があり無毛。裏面は脈液に淡黄褐色の毛があり、葉柄は長さ4～12cm。果実は翼果で直角～鋭角に開き、9～10月に熟す。	黄葉
イチョウ	イチョウ	イチョウ	ギンギョウ	管理事務所上三叉路～第2苗畑入口	中国原産とされ高さ30mほど。大木には、乳と呼ばれる気根も見られる。樹皮はコルク質が発達し、落葉時は短枝がよく目立つ。種子は銀杏で知られ、10～11月に黄色く熟し、匂いがある。街路樹としてよく植えられており、大木も見られる。	黄葉
イロハモミジ	ムクロジ	カエデ	イロハカエデ	園内各所	山地の多少湿り気のある日当たりのよい斜面に生育し、高さ15mになる。若木の樹皮は緑色でなめらかで、成木の樹皮は淡灰褐色で縦に浅い割れ目が入る。葉は対生し、直径4～7cmで、掌状に5～9裂する。葉柄は2～4cm。果実は翼果で、翼はほぼ水平に開き、7～9月に熟す。和名の由来は、5～7裂する葉の裂片を「いろはに」と数えたこと、モミジは紅葉することによる。	
ウリカエデ	ムクロジ	カエデ	メウリノキ	苗畑下法面 ロマンス池下流	山地のやや乾燥する尾根筋などに生育、明るい場所を好む。葉はほとんど分裂しないか、浅く3裂し、ふぞろいの重鋸歯がある。花は雌雄別株、4～5月に淡黄色の花が総状花序に10個内外つく。果実は翼果で水平に開き、赤味を帯びる。	
ウリハダカエデ	ムクロジ	カエデ		苗畑下法面林内他	山地のやや湿気のある谷間やゆるやかな斜面に生育し、高さ8～10mになる。葉は扇状五角形で浅く3～5裂し、重鋸歯がある。花は雌雄別株まれに同株。5月頃、淡緑色～淡黄色の花を総状花序に10～15個つける。	
エンコウカエデ	ムクロジ	カエデ		見本園(番号看板17付近)	イタヤカエデの品種。山地のやや湿り気のある谷間や斜面に生育し、樹高は10～20m。葉は掌状に5～7深裂する。細長く裂けた葉を、猿の手に見立てたのがその名の由来と言われている。	
オオモミジ	ムクロジ	カエデ	ヒロハモミジ	管理事務所前	多少湿り気のある日当たりの良い斜面に生育し、高さ10～15mになる。太平洋側の山地に多い。葉は対生し、直径7～12cmで掌状に5～9裂する。縁には細かくそろった鋸歯がある。イロハモミジやヤマモミジの葉の鋸歯は欠刻状で不ぞろいだが、オオモミジの鋸歯は細かくそろっている。	
カジカエデ	ムクロジ	カエデ	オニモミジ	見本園(番号看板17付近)	山地の肥沃な谷間などに生育し、高さ10～15m。中国地方には少ない。葉は掌状に5裂し、粗い鋸歯がある。花は雌雄別株、4～5月に葉が展開する前に側芽から散房花序をだし、暗紅色の花をつける。	
カツラ	カツラ	カツラ		センター池横	山地の谷沿いに生育し、高さ30mほど。葉は対生し、長さ4～8cm、幅3～8cmの広卵形で、先端は丸いが少しとがり、基部は浅いハート形または切形。縁には波状の鋭い鋸歯があり、両面とも無毛。黄葉した葉には甘い独特な香りがあるので、抹香にした。	黄葉 香りあり
カラコギカエデ	ムクロジ	カエデ		見本園(水生植物園近く)	寒冷地の湿原などに生育し、高さ5～8m。葉は卵状楕円形～三角状卵形、浅く3～5裂し、先はとがり、ふぞろいの重鋸歯がある。花は雌雄同株、一つの花序に雄花と両性花が混生する。5～6月に枝先に円錐花序を出し、淡黄緑色の花を多数つける。	
コハウチワカエデ	ムクロジ	カエデ	イタヤマゲツ	苗畑	ミズナラやブナの生える山地に生育し、高さ10～15mになる。葉は直径5～8cmの掌状に5～11裂し、縁には鋭い単鋸歯や重鋸歯がある。花は雌雄同株、ひとつの花序に雄花と両性花が混生する。5～6月に淡黄色の小さな花を複散房花序に15～20個つける。	
タカノツメ	ウコギ	タカノツメ	イモノキ	ファミリー広場	山地に生え、高さ5～15mになる。西日本の低山に比較的多く、東日本には少ない。葉は3出複葉だが、ときに単葉、2小葉も混じる。秋には澄んだ黄色に黄葉する。果実は小型の球形で黒く熟す。	黄葉 香りあり

チドリノキ	ムクロジ	カエデ	ヤマシバカエデ	苗畑	山地の谷間などに分布、樹高は8～15m。花は雌雄異株、4～5月に開花、枝の先端に総状花序をつける。葉は対生、卵状長楕円形、形のそろった重鋸歯がある。サワシバやクマシデの葉に似る。果実は翼果、8～10月に熟す。
トウカエデ	ムクロジ	カエデ		緑の相談所下園 路沿い他	中国原産。街路樹等で植栽され、高さ10～20mになる。葉は対生し、長さ4～8cm、掌状の3脈があって浅く3裂する。果実は翼果で10月頃熟す。成長が早く萌芽力もあり、潮風や大気汚染にも強く、紅葉～黄葉し、美しい樹種である。
ドウダンツツジ	ツツジ	ドウダンツツジ		見本園他	本州中部、四国、九州が原産。樹高は1～6m。葉は枝先に輪状に互生し、長さ2～5cmの倒卵形。縁に細かい鋸歯がある。花は4～5月、つぼ型の白い花を散形状に吊り下げる。秋は紅葉が美しい。
ニシキギ	ニシキギ	ニシキギ		見本園、作業舎裏	丘陵から山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。下部から枝分かれして、高さ1～3mになる。若い枝は緑色で4稜があり、稜上に褐色の薄い板状の翼がある。葉は対生、長さ2～7cm、幅1～3cmの長楕円形または倒卵形で、先は鋭くとがる。果実は10～11月に熟す。
ノムラカエデ	ムクロジ	カエデ		見本園他	オオモミジ系。古くから存在する品種で類似品が多く、決定品はない。春は赤茶色から濃い赤茶色になり、秋は赤から橙色に紅葉する。古名を武蔵野という。
ハウチワカエデ	ムクロジ	カエデ	メイゲツカエデ	苗畑東側、他園内	山地に生え、高さ5～10mになる。葉は対生し、直径7～12cmと大きく、掌状に浅く9～11裂する。葉柄は2～4cm。4～5月、本年枝の先に散房花序をだし、暗紅紫色の花を開く。翼果は長さ約2cmで斜めに開く。和名の由来は、大型の葉を天狗のうちわにみたてたことによる。
ハナノキ	ムクロジ	カエデ	ハナカエデ	県木の森	長野・愛知・岐阜県の一部に自生している。山地の川岸などの湿ったところに生育し、高さ25～30mになる。樹皮は灰白色。葉は対生し、長さ4～10cm、幅3～6cmの広卵形で浅く3裂し、ときに切れ込みのないものもある。果実は5月上旬～中旬に熟す。
ミツデカエデ	ムクロジ	カエデ		見本園	山地に生え、高さ10～15m。葉は3出複葉で対生し、粗い鋸歯がある。花は4～5月に咲き、黄色の小さな花を多数開かせる。果序は長さ10～20cmで下垂し、翼果は長さ2.5～3cmであまり開かない。
メグスリノキ	ムクロジ	カエデ		見本園	本州の宮城・山形県以西の山地に分布し、高さは10～15m。花は雌雄異株で、4～5月に開花、短い枝先に束状の花序をつける。葉は三出複葉、対生、波状の粗い鋸歯がある。果実は翼果で8～10月に熟す。和名は樹皮を煎じて洗眼薬に用いられたことによる。
メタセコイア	スギ	アケボノスギ	アケボノスギ	多目的広場 見本園他	中国南西部原産で1945年に発見された。高さ20mになる。葉は側枝に対生し、長さ2～3cmで幅1mmの線形で柔らかい。秋になると赤褐色に色づき、側枝ごと落ちる。果実は球果で、10～11月に直径約1.5cmのやや長い球形に熟す。ラクウショウとは、葉が互生であることから区別できる。
モミジバフウ	マンサク	フウ	アメリカフウ	園内各所	北米原産で大正時代に渡来し、高さ20mになる。樹皮は灰色で、老木では黒褐色になり、縦に裂け目が入る。葉は互生し、長さ14～22cm、幅9～15cmで、掌状に5中裂し、ふちには不ぞろいな細かい鋸歯がある。葉形がカエデの仲間と似ているが、カエデの仲間は葉が対生する。
ヤマボウシ	ミズキ	サンシュユ	ヤマグワ	レストハウス、見本園	山地の林内や草原に生育し、高さ5～15mになる。葉は対生し枝先に集まってつき、先は鋭くとがる。ふちは全縁で波打つ。果実は9～10月に赤く熟し、かすかに酸味はあるがねっとりとして甘く、生食できる。
ヤマモミジ	ムクロジ	カエデ		学習展示館裏	山地に生え、高さは5～10m。花は5月頃咲き、雄花と両性花がある。葉はイロハモミジに似るが、葉縁が7～9分裂し、粗い欠刻状の重鋸歯がある。果実は翼果。
ラクウショウ	スギ	ラクウショウ	ヌマスギ	湿地植物園	水湿地や沼地などに生育し、高さ20mになる。樹幹は円錐形～丸みを帯びる。葉は側枝に羽状に互生し、秋には赤褐色に色づき側枝ごと落ちる。湿地では、ある程度大きくなると膝根と呼ばれる呼吸根が地中から出てくる。